

音楽アーティスト科 ヴォーカルパフォーマンスコース 受講科目一覧 1年次

ヴォーカル専攻 ダンスヴォーカル専攻

文化・教養専門課程（文化・教養分野）

1 単位時間

4 5 分

授業科目		年間授業 時間数	週授業 時間数	単位数
講義	一般教養 I	74	2	4
講義	音楽理論/調音 I	74	2	4
講義	アイソレーション I	74	2	4
講義	表現 I	74	2	4
講義	音楽史 I	74	2	4
実習	分野別実習 I	74	2	2
実習	歌唱 演奏基礎技術 I	74	2	2
実習	歌唱/演奏実技 I	74	2	2
実習	歌唱/ダンスパフォーマンス実習 I	74	2	2
演習	アンサンブル基礎 I	74	2	4
演習	アンサンブル応用 I	148	4	8
合計		888	24	40

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	一般教養 I		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	一般教養 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数 4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル/シンガーソングライター/ギター/ベース/ドラム/ヴォーカルパフォーマンス/ダンスパフォーマンス/サウンドクリエイター/アーティスト総合/ネットアーティスト				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 <input type="checkbox"/>	非該当 <input checked="" type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴					
授業概要					
<p>社会人として、またエンターテインメント業界を目指す人材として、業界内で必要なコミュニケーション力を身に付けるための授業を行います。コミュニケーション力だけでなく、教養力の深みが芸術創作において多大な影響を与えていくことを把握させ、知識量の増強を図ります。また、一社会人としても人間開発が行えるように広汎な情報を提供します。</p>					
到達目標					
<p>社会人として必須条件である一般教養を身につけ、デビューや就職へ向けた準備を万全にしていきます。将来どのような職業につくにしても人文科学、自然科学、社会科学の三分野の知識を隔たりなく、幅広く修得することが大事だという前提に立って、教養を学んで、自ら問題設定して新しい答えを探ることができるようにします。また、知識量を効率化し自分に役立つものだけを取捨選択するといった、幅の狭い世界に陥らないような人材を目指します。併せて、アーティストとして活動する為のノウハウ、音楽業界で活躍する為に必要な知識や情報の提供を行っていきます。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	一般教養についての概略を把握し、教養力の重要性を説きます。また健全な生活リズムの大切さをバイオリズムの仕組みなどを通して理解し、栄養学では食べ物と健康維持の関連性に触れながら安定的な生活を送る上での重要なポイントを学習します。
【前期】 5～8回目	IT技術を通してSNSの長短をはじめとした情報へのリテラシーを学習します。また敬語を通して社会の中でいかに丁寧なコミュニケーションをはかれるかを例題を通して把握していきます。挨拶についてもケーススタディーを通して学びます。
【前期】 9～12回目	プロフェッショナルの定義を通して自らの商品性をエンタテインメント産業においてプロモーションしていく重要性を考えます。各メディア(レコード会社、レーベル、プロダクション(事務所)、音楽出版社)の違いなども認知し、自らにおける将来像の在り方も探っていきます。
【前期】 13～16回目	エンタテインメント産業の構造を理解しながらデビューや自己PRの方法論を解説していくと同時にイベント出演などの方法、また、打合せや企画書制作、プロット制作などを含むステージ作りの具体的なアプローチも学習します。
【前期】 17～19回目	会社構造への理解を深めながら特に会社組織の成り立ちを学びます。その中で礼節に着目し、対人対応の基本である身だしなみ、お辞儀、立ち振る舞いなどを理解していきます。また、社会人として席次や名刺交換のルールにも触れていきます。 ■前期試験:筆記試験にて、前期で学習した内容の理解度を確認する。
【後期】 20～23回目	世界共通語の英語、特に会話に重点を置き日本語圏以外でのコミュニケーション能力のアップをはかります。また、世界地理への知識量を上げながら国外の風土や文化面などの特色も学んでいきます。
【後期】 24～27回目	日本語に着目し、漢字、ことわざ、四字熟語の読解及び使い方など、また現代文を通しては読解力をはじめ文章構成や言葉の味わいを理解し、総合的に国語力を高めていきます。
【後期】 28～31回目	日本の歴史、古代から近世、現代に至るまで年代順に時代の特色を学び、我々の文化的背景を考察していきます。また日本の暦をはじめ歳時記などの四季の事物や年中行事なども理解していきます。
【後期】 32～35回目	音楽、写真、映像など創作物における、著作権者の権利を保護するために認められた権利関係を創作者と大衆視点の両面から理解していきます。また自分の顔や姿、宣材を無断で写真・WEBなどにコピーされたり、それを商業目的に使用されることを拒否する権利を学びます。
【後期】 36～37回目	人生哲学や人生訓に触れながら、いかに良く生きるかを考えていきます。そしてそれらをスピーチ原稿の書き方やスピーチ論を学ぶことを通して自らの生きがいや夢を掘り下げると同時に、他者へ自らの考えを主張する能力を開発する。 ■後期試験:筆記試験にて、後期で学習した内容の理解度を確認する。
評価方法	前期試験、後期試験ともに筆記試験を実施し、S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価を行う。
学生へのメッセージ	一般教養は、社会人としての必須条件であり、特に就職希望者にとっては大変重要な知識となります。アーティストとして活動する為のノウハウ、音楽業界で活躍する為に必要な知識を習得し、自身の音楽活動に活かしてください。また、音楽業界に求められる人材として自己をアピールできるように、様々な教養を身につけていくことを目的としています。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	セオリー&イヤートレーニング I		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	音楽理論/調音 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル/ヴォーカルパフォーマンス				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	KAN、浜崎あゆみ、林原めぐみなど様々なアーティストのバックコーラスやレコーディング制作に携わる。 23歳の時にアニメセイバーマリオネットact5エンディング「風の詩を聴きながら」でメジャーリリース。 その後ヴォイストレーナーとして多数アーティスト(元生徒はDAIGO、太田在etc)の指導を行う。 上記の経験を活かし楽曲制作並びに音楽理論の実技指導を行う。				
授業概要					
音楽の基本的な決まり事を学ぶ「理論」と、音感を鍛える「聴音」の授業です。 理論では正確に楽譜を読み書きする能力を得ること、作曲の為の基礎知識を養うこと、音楽用語の意味を学びます。聴音では音程やリズムを耳で聴き取り、演奏や譜面におこなうことができる能力を得ます。 また、様々なジャンルの音楽の基礎知識を学ぶことにより、音楽人に必要な力も養います。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・楽譜の読み書きができるようになります。 ・楽器を使わずに、耳だけで音程(音の高低)やリズムを聴き取れるようになります。 ・音楽用語を使用し、他楽器(バンドメンバー)とのコミュニケーションを可能にします。 ・インターバル、スケール、ハーモニー、コード、リズム、におけるベーシックが把握できます。 ・曲の構成を理解して、メロディとコードの関係を深く理解できます。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	ウォーミングアップ発声、音符と休符、リズムのトレーニング、メジャースケール。
【前期】 5～8回目	インターバルの紹介、読譜、オリジナル作詞。
【前期】 9～12回目	テンポとリズム、ブレスのメカニズム、音域チェック、FメジャーキーとGメジャーキー。
【前期】 13～16回目	ハモリ、オリジナル作詞2、123メロディー発声、タイと付点子音。
【前期】 17～19回目	歌と発声、5度圏、聴き取り(イヤトレ)、ハモリ練習。 ■前期試験:筆記試験にて「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレ力 / 読譜力」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	オリジナルメロ作成、1234メロディー発声、16分音符リズムトレーニング、ロングブレス。
【後期】 24～27回目	ピッチトレーニング、数字インターバル、ハモリ練習、オリジナルメロ作成2。
【後期】 28～31回目	12345メロディー発声、リズムチェック、サイエンステスト。
【後期】 32～35回目	ピッチトレーニング復習、インターバル、ハモリチェック。
【後期】 36～37回目	ヒット曲のレコーディング。 ■後期試験:筆記試験にて「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレ力 / 読譜力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレ力 / 読譜力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	理論をマスターして「なぜカッコ良いのか」「どうしてグッと来るのか」といったことが分かってくると、「気持ちをこめる」だけでなく「気持ちを伝える」表現豊かな音楽ができるようになるでしょう。 また、なんといってもミュージシャンは耳が命です。音楽からいろんなアイデアをキャッチできるようになりましょう。 他にも、理論や聴音を学ぶことは、今後の歌唱・演奏や作曲の手助けになるにもなります。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ダンスベーシック&アイソレーション I		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	アイソレーション I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカルパフォーマンス				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	・EXILE、TRF等のメジャーアーティストのツアーバックアップダンサーをこなし、自身でもダンサーとして振り付け等を行う。 上記の経歴を活かし、職業として求められる「ダンスの技術、表現力等」の指導を行う。				
授業概要					
HIPHOPのベーシックを中心に、アイソレーション、ステップ、コンビネーションの強化を図ります。 また、ダンスヴォーカルやパフォーマンスを行う上で必須条件となる基礎体力と筋力を身につけるとともに、ダンスの技術(ステップ・アイソレーション等)、リズム感、表現力を養い、完成度の高いパフォーマンスを目指します。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・ダンスの基礎を理解するとともに、基礎体力の増加を図ります。 ・ベーシックを中心に課題曲を通して、振付技術の習得を目指します。 ・技術面だけではなく、パフォーマーとしての個性のある表現力を養います。 ・即戦力になるダンサーを目指します。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	・ストレッチ、体カアップ、体幹トレーニングの習得。(身体を動かす身体に整える)
【前期】 5～8回目	・アイソレーション、リズムトレーニングの理解と習得。
【前期】 9～12回目	・HIPHOPベーシックの中心ステップを習得。(ボックス・チャールストン・スマーフ等)
【前期】 13～16回目	・基礎トレーニング強化+習得したステップのコンビネーションを制作。
【前期】 17～19回目	コンビネーションの強化+構成制作。練習後、発表会を行う。 ■前期試験:課題曲を通して、「基礎力 / コンビネーション / 振り付け」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	・アイソレーションのレベルアップと強化。 ・カルチャーステップ習得。
【後期】 24～27回目	・ステップのレベルアップと強化。 ・ロック、ソウル、パンキング等、ジャンル毎のベーシックを習得。
【後期】 28～31回目	・前期に学習したムーブの復習。 ・振り付け制作と練習。
【後期】 32～35回目	・振り付け強化+構成制作と練習。
【後期】 36～37回目	発表会の実施。 ■後期試験:課題曲を通して、「基礎力 / コンビネーション / 振り付け」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「基礎力 / コンビネーション / 振り付け」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ダンスの面白さ、深さ、歴史などについて基礎から学習していきます。 ダンスベーシック、アイソレーションはすべてダンスジャンルに必要なスキルです。 最終段階ではベーシックを中心とした振り付けを自分で制作する。そして、発表出来るようになるまでが目標です。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ヒップホップ I		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	表現 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ダンスパフォーマンス/ヴォーカルパフォーマンス				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	DA PUMPの全国ツアーに帯同し、振付・サポートダンサーとして出演。 また、テレビCM「TAX」にメイン出演。その他、福岡発のアイドルグループ「LinQ」の総合演出・振付を行うなど、多方面にて活躍中。 上記の経歴を活かし、職業として求められる職業として求められる「ダンスの知識、表現力等」の指導を行う。				
授業概要					
ヒップホップダンスの基礎的なステップとスキルの習得とその基礎知識の理解。自由であるヒップホップは様々な時代、ジャンルやスタイルを取り込んでいるので「オールドスクール」「ミドルスクール」「ニュースクール」の3つに分類されたジャンルを中心に理解し、習得を目指す。(現代的なリズムのダンス、BBOYING、POPING、LOCKINGなど他)					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・ヒップホップダンスの基礎ステップやリズムを習得、理解する。 ・様々な曲にのり踊る事ができるようベーシック、リズムやアイソレーションを活かし、幅広いヒップホップにのせて踊る。 ・「オールドスクール」「ミドルスクール」「ニュースクール」に触れ理解する。 ・ジャンル別のステップを踊る事ができる。 ・ヒップホップの曲や年代別の曲で同じスタイルの踊り、多様で自由な踊りを知る事ができる。 					
授業計画・内容					
【前期】 1～4回目	様々なヒップホップの曲のリズムを理解、把握。ヒップホップに乗せてリズムやアイソレーションの練習。基礎体力、筋力の上昇の為に筋トレ。基礎ステップの把握、習得。				
【前期】 5～8回目	基礎ステップの習得。基礎ステップの組み合わせルーティーンを踊れるよう身に付ける練習。ヒップホップに乗せリズムやアイソレーション、ステップを組み合わせルーティーン、振付を練習。				
【前期】 9～12回目	基礎ステップ、必修ステップを習得。多くのバリエーションでステップを組み合わせも身に付ける。ステップ、リズム、アイソレーション、ポージングの組み合わせルーティーンで楽曲のワンコーラスを踊る練習。				
【前期】 13～16回目	基礎ステップ、必修ステップの習得復習、クオリティ上げる反復練習。【課題曲1】学んだ内容やプラスαの振付を理解習得。仕上げ、前期テストを通して基礎ステップ、必修ステップの名前やクオリティをチェック。課題曲1の発表。				
【前期】 17～19回目	【前期まとめ】実施試験の成果、結果を踏まえて個々へのフィードバックとアドバイス。後期に向けての個々の細かい修正ポイントや、技術向上。体幹作りとアイソレーションをレベルアップアップしたボディコントロールの練習。 ■前期試験:課題曲を通して、「リズム(ダンス感)/知識/クオリティ/ニュアンス」の到達度を確認する。				
【後期】 20～23回目	前期フィードバックを踏まえ練習、復習、改善。応用ステップを習得。「オールドスクール」に触れ、ヒップホップにも使われる技やステップ、ノリを理解習得。【振付1】それぞれの要素ヒップホップを組み合わせさせた振付を習得。				
【後期】 24～27回目	振付1の復習、クオリティ上げ。「ミドルスクール」に触れ、ヒップホップにも使われる技やステップ、ノリを理解習得。【振付2】それぞれの要素ヒップホップを組み合わせさせた振付を習得。ソロやフリースタイル、自由に踊れるよう練習。				
【後期】 28～31回目	振付2の復習、クオリティ上げ。「ニュースクール」に触れ、ヒップホップにも使われる技やステップ、ノリを理解習得。【振付3】それぞれの要素ヒップホップを組み合わせさせた振付を習得。ソロやフリースタイル、自由に踊れるよう磨く。				
【後期】 32～35回目	振付1,2,3の復習。ソロ、フリースタイルを磨く練習。自分で振付を考えてその場で発表。後期テスト【振付1振付2振付3】の中から1～3課題としていた振付の実施。「オールドスクール」「ミドルスクール」「ニュースクール」の中よりステップを実施、ステップ名を答える。				
【後期】 36～37回目	【後期・最後まとめ】後期試験の成果、結果を踏まえたフィードバックと改善アドバイス。レベルアップの為に要素。2年生に向けての、一般的な身体の使い方や細かい自己の身体の動かし方を活かせる為の練習、意識、アドバイス。 ■後期試験:課題曲を通して、「リズム(ダンス感)/知識/クオリティ/ニュアンス」の到達度を確認する。				
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「リズム(ダンス感)/知識/クオリティ/ニュアンス」の3項目の到達度を総合的に評価する。				
学生へのメッセージ	ヒップホップは音楽に乗って自由に踊ることが特徴で、ソウルダンスやジャズなど、他ジャンルのダンス要素を取り入れるなど、時代によって新しいスタイルが生まれ、進化してきているダンスです。曲から踊りまで幅広く様々なノリも含めマスターすることで、より自由に楽しく踊る事ができ、ダンサーの仕事としても必須なジャンルとなります。楽しみながらカッコよく踊れるように頑張りましょう。				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	リズムヴォーカルの歴史と体系 I		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	音楽史 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカルパフォーマンス/ダンスパフォーマンス				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	YAMAHAポピュラーミュージックコンテストボーカル部門優勝経験を持ち、1999年よりアーティスト活動開始。歌手としてデビューし4枚のCDをリリースしている。黒人霊歌、ソウル、R&B、ジャズなど、アメリカンブラックミュージック中心に現在もライブ活動をしている。様々なジャンルの音楽に携わってきたヴォーカリストとしての活動経験を活かした講義内容となっている。				
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ヴォーカルの為のリズムトレーニング、身体づくり、リズムの歴史を学ぶ。(リズム史=POPS音楽史) ・ヴォーカルに活かすためのリズム発声～アドリブスキットまで。 				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・漠然と歌のメロディーを歌えるのではなく、頭と体でリズムを理解し、コントロールできるテクニックを身に着ける。 ・ジャンルごとのリズムの特徴を学び、歌いまわしのクオリティーを上げる。 ・体全体でリズムをキープしながら、瞬時にいかなるヴォーカルアプローチも出来るようになる。 				

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	リズムの種類、特徴を頭で理解し、体で表現する。「4. 8. 16beatを 足・腰・背骨・首でキープする。同時に声も乗せる」
【前期】 5～8回目	POPS音楽の歴史(リズム的観点)① 世界のPOPS音楽の流れがどのようにしてJ-POPにつながっているかを理解する。歴史的背景/ジャンル理解/ジャンルの特徴を学ぶ
【前期】 9～12回目	体幹強化① ヨガなどを使って体幹を鍛え、体に意識を向ける。骨のしくみ/筋肉の相互作用/ヴォーカリストの姿勢を学ぶ。
【前期】 13～16回目	スキット準備編(リズムを声で表す・初級 / コール&レスポンスについて) スキットとは何か?/リズム表現しやすい言葉/リズムのフィールを感じ取る/
【前期】 17～19回目	前期の復習・確認 ■前期試験:筆記試験にて「各リズムの体現・理解 / 歴史的理解 / 体の理解」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	シャッフル・スウィングを頭で理解し、体で表現する。体でキープしながら、声でメロディを歌う
【後期】 24～27回目	POPS音楽の歴史(リズム的観点)② 世界のPOPS音楽の流れがどのようにしてJ-POPにつながっているかを理解する。歴史的背景/ジャンル理解/ジャンルの特徴を学ぶ
【後期】 28～31回目	体幹強化② ヨガなどを使って体幹を鍛え、体に意識を向ける。骨のしくみ/筋肉の相互作用/ヴォーカリストの姿勢を学ぶ。
【後期】 32～35回目	スキット本番(好きなリズムパターンを作りメロディーを乗せる/コール&レスポンス実践)
【後期】 36～37回目	1年間トータル復習・確認 ■後期試験:筆記試験にて「各リズムの体現・理解 / 歴史的理解 / 体の理解」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「ヴォーカル / ダンス / リズム・ピッチ / パフォーマンス」の4項目の到達度を評価する。
学生へのメッセージ	音の高低(音階)/声を出すタイミング(リズム)で成り立つ歌。半分をしめるリズムについて、ヴォーカリストの観点で大切な要素を学びましょう。じっくり話を聞いて噛みしめる抗議～笑い声がはじける実技～うめき声の出る体幹強化(笑)色んな側面は、すべてプロのヴォーカリストへの道につながっています。自分の中で様々な場面に当てはめて、授業の外でも理解を深めてください。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ヴォイストレーニング I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱/演奏基礎技術 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル/ヴォーカルパフォーマンス				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	The 8th Music Revolution Hi-Gain大会でグランプリを獲得。・V3新人オーディション20thファイナリストに選出)そのポテンシャルの高さを披露。2012年には、Fukuoka Music Factoryの第6弾ファイナルアーティストに選出さる。2016佐賀年気球世界選手権応援ソングに「Life」が採用される。2020年配信弾き語りワンマンライブ「Voyage」を開催。上記の経歴を活かし、職業として求められる「発声に関するトレーニング等」の指導を行う。				
授業概要					
ヴォイストレーニングを通し、正しい発声の仕方、音域の拡張、共鳴のさせ方を学習していきます。ウォーミングアップの方法・腹式呼吸の習得・表情筋の使い方・母音を正しく響かせる口の開け方など。また、歌唱の基礎であるチェストヴォイス～ミックスヴォイス～ヘッドヴォイスの声区融合とリズム感も併せて学習します。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・様々なスケールを用い、チェストヴォイス～ミックスヴォイス(ミドル)～ヘッドヴォイスの声区融合を身に付けます。 ・4分音符、8分音符、1拍3連、16分音符のリズムを体で理解し、歌唱へ反映させていく技術を習得します。 ・様々な歌唱テクニックを習得し、歌唱へ反映させていく力を身に付けます。 ・歌唱するのに必要なリズム感を養い、自身の持つ声をより向上させ、様々な共鳴・声色を習得します。 ・正しい音を耳(脳)へと伝え、それを表現するための方法を身につけます。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	発声練習の目的 / 要素と役割 / ストレッチ / 腹式呼吸 ウォーミングアップ ～ハミング・リップロール・表情筋・あくび～
【前期】 5～8回目	低音の響き①～超低音・前の響き・後ろの響き～ / 中音の響き①～声帯～ / 高音の響き①～裏声・ミックスヴォイス～
【前期】 9～12回目	低音の響き②～超低音・前の響き・後ろの響き～ / 中音の響き②～声帯～ / 高音の響き②～裏声・ミックスヴォイス～
【前期】 13～16回目	総合的の反復練習 / 課題曲① (発声に意識して歌唱してみる)
【前期】 17～19回目	総合的の反復練習 / 課題曲② (発声に意識して歌唱してみる) ■前期試験:筆記と発声の試験により「音程の精度 / 共鳴 / 知識」の到達度、理解度を確認する。
【後期】 20～23回目	発声練習の目的 / 要素と役割 / ストレッチ / 腹式呼吸 ウォーミングアップ ～ハミング・リップロール・表情筋・あくび～
【後期】 24～27回目	低音の響き③～超低音・前の響き・後ろの響き～ / 中音の響き③～声帯～ / 高音の響き③～裏声・ミックスヴォイス～
【後期】 28～31回目	低音の響き④～超低音・前の響き・後ろの響き～ / 中音の響き④～声帯～ / 高音の響き④～裏声・ミックスヴォイス～
【後期】 32～35回目	総合的の反復練習 / 課題曲③ (発声に意識して歌唱してみる)
【後期】 36～37回目	総合的の反復練習 / 課題曲④ (発声に意識して歌唱してみる) ■後期試験:筆記と発声の試験により「音程の精度 / 共鳴 / 知識」の到達度、理解度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「音程の精度 / 共鳴 / 知識」の3項目の到達度、理解度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	発声とリズムは歌唱の基礎で最も重要な技術です。発声練習は自分の声質を把握し、より良くしていくために欠かせません。チェストヴォイス(地声)の音域はトレーニング次第で伸ばすことができます。高く歌えないと思っていた楽曲でもトレーニング次第で歌えるようになります。また、裏声や低音域をしっかり鍛えることで、歌唱の中で使える音色を多く習得することが可能です。自分の音域や癖をしっかり把握しトレーニングに励み、歌える楽曲の幅を広げましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	グループヴォーカル I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱 演奏実技 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル/ヴォーカルパフォーマンス				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	Rickie-G のバックコーラスをつとめる他、シンガーとしてライブサポート、レコーディング、社歌やサウンドロゴ等の歌入れも行う。 ミッキー吉野(ゴダイゴ)、中西圭三、HY、島袋優(BEGIN)など大物アーティストとの共演も多数。 上記の経歴を活かし、職業として求められる「複数人数での歌唱技術、ハーモニー・表現力等」の指導を行う。				
授業概要					
多くの難易度の高い楽曲(GOSPEL・ミュージカル楽曲・POPS等)を通し、心の解放・ハーモニーへの理解、発声や歌唱法を学ぶ。時にはリードボーカルのオーディションを行い、生徒同士で競争することによる技術向上を目的とする。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・大人数の中で歌うために必要な知識や技術の習得。ハーモニー(ハモリ)を作ることの技術習得。 ・グループの一員としてステージに立ち、時にはchoirとして、時にはリードボーカルとしての歌唱法や立ち振る舞い、パフォーマンスを学ぶ。 ・ハモることへの不安がなくなる。 ・心を解放させ身体全体を使ってステージパフォーマンスができる。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	パート分け(女子2パート、男子2パート) 1曲目:曲の仕込み(曲を聴く、パートごとに音振り、アンサンブル) リードボーカルのある曲の場合、最終週にリードボーカルオーディション、リードシンガー決定
【前期】 5～8回目	2曲目:曲の仕込み(曲を聴く、パートごとに音振り、アンサンブル) リードボーカルのある曲の場合、最終週にリードボーカルオーディション、リードシンガー決定 1曲目とともにLIVE WEEKに向けてパフォーマンス込みで練習。
【前期】 9～12回目	3曲目:曲の仕込み(曲を聴く、パートごとに音振り、アンサンブル) リードボーカルのある曲の場合、最終週にリードボーカルオーディション、リードシンガー決定 1曲目とともにLIVE WEEKに向けてパフォーマンス込みで練習。
【前期】 13～16回目	4曲目:曲の仕込み(曲を聴く、パートごとに音振り、アンサンブル) リードボーカルのある曲の場合、最終週にリードボーカルオーディション、リードシンガー決定
【前期】 17～19回目	前期まとめ(1～4曲目の復習) ■前期試験:課題曲の歌唱により「歌唱技術 / ハーモニー / パフォーマンス / チームワーク」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	5曲目:曲の仕込み(曲を聴く、パートごとに音振り、アンサンブル) リードボーカルのある曲の場合、最終週にリードボーカルオーディション、リードシンガー決定
【後期】 24～27回目	6曲目:曲の仕込み(曲を聴く、パートごとに音振り、アンサンブル) リードボーカルのある曲の場合、最終週にリードボーカルオーディション、リードシンガー決定
【後期】 28～31回目	7曲目:曲の仕込み(曲を聴く、パートごとに音振り、アンサンブル) リードボーカルのある曲の場合、最終週にリードボーカルオーディション、リードシンガー決定
【後期】 32～35回目	8曲目:曲の仕込み(曲を聴く、パートごとに音振り、アンサンブル) リードボーカルのある曲の場合、最終週にリードボーカルオーディション、リードシンガー決定
【後期】 36～37回目	過去にやった曲の中からLIVE WEEKに向けて選曲、復習、パフォーマンス込みで練習 ■後期試験:課題曲の歌唱により「歌唱技術 / ハーモニー / パフォーマンス / チームワーク」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「歌唱技術 / ハーモニー / パフォーマンス / チームワーク」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	グループボーカルを経験することにより、ハーモニーに対する不安感を拭えます。また、普段は聴かないようなGOSPEL等を聴くことにより、リズム感や発声法を学ぶこともでき、大人数で声を出すことにより、心の解放や私たちの声を持つパワーを直接感じることもできます。この授業を通して様々なジャンルに触れ、多くのことを学ぶきっかけにしましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ダンスヴォーカルユニット I		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	歌唱/ダンスパフォーマンス実習 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカルパフォーマンス/ダンスパフォーマンス				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	<ul style="list-style-type: none"> ・防弾少年団 BTS WORLD TOUR “LOVE YOURSELF”-JAPAN EDITION-サポートダンサー ・AKB41stシングル選抜総選挙、北島三郎博多座特別公演 博多座、a-nation opening act & TRFバックダンサー ・BOAアリーナツアーパレードダンサー ・アイドルグループ パピマシェ、パピロジェ振付 上記の経歴を活かし、職業として求められる「歌唱と踊りの総合表現力」の指導を行う。				
授業概要	<p>シンガーが歌ってダンサーが踊ってバックアップという形だけではなく、全員がヴォーカルでありダンサーで同時に行っていく形もとっていきます。一曲ごとにヴォーカルを交代したりローテーションを回す形ではなく、一曲の歌割の中で代わる代わる全員が歌って踊りながらパフォーマンス出来るような技術も意識、習得します。歌も踊りも同時に経験をして、それぞれがアーティストの意識をもっていけるパフォーマンスを目指します。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ステージパフォーマンスに必要な動き、表情、立ち位置、衣装、他色々な見てもらう事への意識をあげ自己プロデュース力を磨いていく ・歌、ダンスを同時にやることの難しさを体感し、経験していくことで1人1人の可能性を広げて、幅広く選択できるようにしていく ・ダンスヴォーカルユニットとしての1人1人の役割り、意識を高くもちながら、グループとしての魅せ方、チームワーク、仲間を感じて一体感のあるパフォーマンスを目指す ・ダンスヴォーカルユニットを通して、自分の魅せ方、自分の良さをより知ることで、人々を惹きつける力をつけ魅力的な自分になることを目指す 				
授業計画・内容					
【前期】 1～4回目	ダンスヴォーカルユニットの説明、年間を通してどうやっていくか、イメージ、意識を作る。個々の歌声や特徴を知りつつグループディスカッション。パフォーマンスをするにあたってポイントや要素を学習。リズムやインソレーションを使ったダンスの基礎練習。声のブレない身体の使い方の学習。【課題曲1】楽曲の歌詞や主線のキー、ハモリと楽曲振付を覚える。				
【前期】 5～8回目	【課題曲1】振付のクオリティを上げてレベルアップ。マイクを回しながら全員がマイクを持った状態での振付意識、学習。実際に歌唱しながらのダンスを実践していきクオリティを上げる。構成フォーメーション・歌割に沿ったパフォーマンスを高める。				
【前期】 9～12回目	【課題曲2】課題曲1の内容を踏まえながら、活かしてより良いパフォーマンスを作っていく。マイク受け渡しなど、振付も踏まえて、より高度に練習。構成フォーメーション・歌割に沿ったパフォーマンスを高める。目線や仕草などオーディエンスを意識した練習。				
【前期】 13～16回目	仕上げ、歌や踊りだけでなくフォーメーションもしっかりと仕上げる。【実践形式LIVE授業】仕上げ 課題曲1課題曲2をオーディエンスが実際にいるステージでのLIVE授業にて披露発表。【ダンスヴォーカル実技】ダンスパフォーマンスをしながら歌唱の実技を確認。				
【前期】 17～19回目	【前期まとめ】LIVE授業と実技テストで披露した課題曲1課題曲2の成果、結果を踏まえてフィードバックとアドバイス。後期に向けての個々の修正ポイントや、技術向上。ブレない体幹作りとインソレーションのレベルアップ。 ■前期試験:課題曲を通して「ヴォーカル / ダンス / リズム・ピッチ / パフォーマンス」の4項目の到達度を確認する。				
【後期】 20～23回目	前期のフィードバックした内容の改善。ブレない身体の技術向上の反復練習。リズムや基礎の向上練習。【課題曲3】歌詞、ポイントを押さえて歌唱練習。パート分けのローテーション歌唱。振付、構成を覚え、踊りのクオリティを上げる練習。マイク受け渡しも含めて通して仕上げる練習。				
【後期】 24～27回目	課題曲3のダンス、歌唱、フォーメーションのクオリティを仕上げる。【課題曲4】歌詞、ポイントを押さえて歌唱練習。パート分けのローテーション歌唱。振付、構成を覚え、踊りのクオリティを上げる練習。マイク受け渡しも含めて通して仕上げる練習。				
【後期】 28～31回目	課題曲4のダンス、歌唱、フォーメーションのクオリティを上昇させ仕上げる。選択課題曲1 選んだグループで歌割、練習。課題曲 1.2.3.4.選択1の複数曲でのパフォーマンスを想定した練習。体力向上を踏まえたトレーニング。LIVEを想定したセットリストをディスカッションし練習。				
【後期】 32～35回目	【実践形式LIVE授業】仕上げ 課題曲3課題曲4をオーディエンスが実際にいるステージでのLIVE授業にて披露発表。【ダンスヴォーカル実技】レベルアップしたダンスパフォーマンスをオーディエンスを意識しながら歌唱の実技を確認。				
【後期】 36～37回目	【後期・最後まで】課題曲3課題曲4の成果、結果を踏まえてフィードバックとアドバイス。最後に課題選択の複数曲で構成したセットリストの披露。フィードバックとアドバイス。一年間のまとめと個々の修正ポイントや、技術向上。 ■後期試験:課題曲を通して「ヴォーカル / ダンス / リズム・ピッチ / パフォーマンス」の4項目の到達度を確認する。				
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「ヴォーカル / ダンス / リズム・ピッチ / パフォーマンス」の4項目の到達度を評価する。				
学生へのメッセージ	近年の音楽シーンでは歌って踊ることがアーティストになる大きな武器となります。歌って踊るとゆうことに挑戦し経験することで多方面での活躍ができるように自分の可能性をどんどん広げていきましょう。				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	歌唱実習 I		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	アンサンブル基礎 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル/シンガーソングライター/ヴォーカルパフォーマンス				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	<ul style="list-style-type: none"> ・Back Number、中村 正人(DREAMS COME TRUE)等、メジャーアーティストのコンサート時のバックアップミュージシャン ・自身もシンガーソングライターとして九州各地でライブ活動を行う。 上記の経歴を活かし、職業として求められる「歌唱での表現力」の指導を行う。 				
授業概要					
<p>バラードやアップテンポといったテーマに合わせて自分で選んだ曲を歌い、講師や他生徒からの感想やアドバイスをもらいながら磨いていく授業です。</p> <p>自ら選んだ楽曲を歌いこみながらテクニックをきめ細やかに、また感情表現をより深めながらシンガーとしての自らをワークショップスタイルの中で確立していきます。</p>					
到達目標					
<p>自分が歌うだけでなく、他者の歌唱を聞いて、見て、【音程/リズム/歌詞(滑舌や表現)/表現力(表情や身振り手振り、パフォーマンス)]の4つの観点から観察、考察します。</p> <p>【歌う】【聞く】【考える】のサイクルで授業を進めます。他者の歌を客観的に分析することで自身の歌唱とも向き合い、技術を磨いていきます。また、同じ曲を数週間歌い続けることにより楽曲への理解を深め、より表現力豊かな歌唱を目指します。</p> <p>歌唱力だけを磨くだけでなく、「オーディションで結果を出す」「ライブでお客様に楽しんでもらう」ステージングを意識した歌唱ができるようになる。[自身の歌唱の魅力に気づき、活かすことができる。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	・自分の音域と平均音域の確認・自分に合ったKey合わせ・発声①自分の声作り 自分の良い声で歌う練習
【前期】 5～8回目	・子音の仕組みと音作り・発声②音程の強化 跳躍音や半音、色々なスケールを使って練習
【前期】 9～12回目	・A、B、サビ、ブリッジなどの差別化・世界観作り・発声③ポルタメントの習得 アクセントの習得
【前期】 13～16回目	・カバー曲を練習しながらアナリーゼ(楽曲分析)・発声④ビブラートなど技術の習得
【前期】 17～19回目	<ul style="list-style-type: none"> ・自由曲を上記の課題をクリアしながら練習 ■前期試験:歌唱実技により「表現力 / ピッチの正確さ / リズム感」の3項目の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	・前期の発声①～④の復習・ビート・リズムを課題とした曲決め→練習(R&B・レゲエ・シャッフル系)
【後期】 24～27回目	・発声⑤リズムを刻みながらの声出し・洋楽カバー曲の練習
【後期】 28～31回目	・発声⑥声質の変化・フレーズの中、曲の中で声質を変化させ表情をつける練習
【後期】 32～35回目	・課題曲を決め、本来の曲の良さとアプローチを変え練習・オリジナルとしてのカラー作りの練習(オリジナルソングがある人はその曲でもOK)
【後期】 36～37回目	<ul style="list-style-type: none"> ・1年を通して学んだことを自由曲2～3曲にて表現する ■後期試験:歌唱実技により「表現力 / ピッチの正確さ / リズム感」の3項目の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「表現力 / ピッチの正確さ / リズム感」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	楽曲にはそれぞれ本来持っている良さがあり、それを知って表現できていくのがコピーになります。そして生徒さん一人一人にも本来の良さがあります。そこを磨いてカバーソング・オリジナルソングを歌えるようになってほしいです。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ライブスタイル/ライブパフォーマンス実習 I		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	アンサンブル応用 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	74回(148単位時間)	年間単位数	8単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカルパフォーマンス				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	The 8th Music Revolution Hi-Gain大会でグランプリを獲得。・V3新人オーディション20thファイナリストに選出)そのポテンシャルの高さを披露。2012年には、Fukuoka Music Factoryの第6弾ファイナルアーティストに選出さる。 2016佐賀年気球世界選手権応援ソングに「Life」が採用される。2020年配信弾き語りワンマンライブ「Voyage」を開催。				
授業概要					
ボーカル・ラップ・バックダンスについて理解を深める。 課題曲に内包されているテクニック、リズム、ハーモニーなどの類例を自らの経験値として取り込みながらバンドアンサンブルについて理解を深める。 3週で楽曲が変更。ライブイベントへ向けてのリハーサルも兼ね、パフォーマンス力、ステージング力の向上をもはかっていく。					
到達目標					
ボーカル、ダンス、ラップを表現できるようになるための技術を学び習得する。 ・曲の理解 ・全てのパートを含めたフォーメーション、ステージング ・自分のパート(ボーカルorラップorバックダンス)以外とのコミュニケーションの取り方 ・ラップを歌うに当たってのリズムの取り方 ボーカルパート、ラップパート、ダンスパートで1つのチームであることを自覚しすべてのパートの役割を把握した上で、チームとしての一体感を表現できるようになる。それぞれのパートに異なる技術が必要であることを学び、表現できるようになる。					

授業計画・内容	
【前期】 1～8回目	【1曲目】1週目/仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、ラップパート、ダンスパート、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) 2週目/1曲あたり数チーム結成し発表、反省点を各先生からもらい、次のアンサンブルに向けて各自練習してくる。 3、4週目/本番を想定した発表を行う
【前期】 9～16回目	【2曲目】1週目/仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、ラップパート、ダンスパート、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) 2週目/1曲あたり数チーム結成し発表、反省点を各先生からもらい、次のアンサンブルに向けて各自練習してくる。 3、4週目/本番を想定した発表を行う
【前期】 17～24回目	【3曲目】1週目/仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、ラップパート、ダンスパート、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) 2週目/1曲あたり数チーム結成し発表、反省点を各先生からもらい、次のアンサンブルに向けて各自練習してくる。 3、4週目/本番を想定した発表を行う
【前期】 25～32回目	【4曲目】1週目/仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、ラップパート、ダンスパート、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) 2週目/1曲あたり数チーム結成し発表、反省点を各先生からもらい、次のアンサンブルに向けて各自練習してくる。 3、4週目/本番を想定した発表を行う
【前期】 33～38回目	LIVE WEEKに向けて1～4曲目でそれぞれチームを結成。 本番に向けてパフォーマンスやクオリティを上げるためのリハーサル週間 ■前期試験:課題曲の歌唱により「音程 / リズム / パフォーマンス / チーム内コミュニケーション」の到達度を確認する。
【後期】 39～46回目	【5曲目】1週目/仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、ラップパート、ダンスパート、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) 2週目/1曲あたり数チーム結成し発表、反省点を各先生からもらい、次のアンサンブルに向けて各自練習してくる。 3、4週目/本番を想定した発表を行う
【後期】 47～54回目	【6曲目】1週目/仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、ラップパート、ダンスパート、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) 2週目/1曲あたり数チーム結成し発表、反省点を各先生からもらい、次のアンサンブルに向けて各自練習してくる。 3、4週目/本番を想定した発表を行う
【後期】 55～62回目	【7曲目】1週目/仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、ラップパート、ダンスパート、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) 2週目/1曲あたり数チーム結成し発表、反省点を各先生からもらい、次のアンサンブルに向けて各自練習してくる。 3、4週目/本番を想定した発表を行う
【後期】 63～70回目	【8曲目】1週目/仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、ラップパート、ダンスパート、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) 2週目/1曲あたり数チーム結成し発表、反省点を各先生からもらい、次のアンサンブルに向けて各自練習してくる。 3、4週目/本番を想定した発表を行う
【後期】 71～74回目	LIVE WEEKに向けて5～8曲目の中から3～4チームを結成。 本番に向けてパフォーマンスやクオリティを上げるためのリハーサル週間 ■後期試験:課題曲の歌唱により「音程 / リズム / パフォーマンス / チーム内コミュニケーション」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「音程 / リズム / パフォーマンス / チーム内コミュニケーション」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	この授業では、ボーカル・ラップ・ダンスパートそれぞれをしっかりと学んでいくことができます。3パートではそれぞれ見せ方や動き方、パフォーマンスが異なるため覚えることも多く大変ですが、ステージマンとしての心構えや必要な技術の向上には欠かせない授業になるでしょう。普段ラップをやることのない生徒でも、リズムの取り方、アクセントのつけ方などを学ぶことで、歌う際にもメリハリのある表現をできるようになります。
備考	